

# 令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立みはま支援学校

校長名： 植野 博之

## 目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・個々の実態や特性に応じた、持てる力と社会自立に向けての力を育成する。
- ・病弱教育の専門性を高め、県・地域の特別支援教育のセンター的役割を担う。

## 学校評価の公表方法

ホームページに掲載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

## 自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月1日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	新学習指導要領に基づく有効な目標と評価の観点より、病弱虚弱児・重度重複障害児の達成感やQOLを高める教育支援の充実を図る。	B	校内教育課程検討委員会を通じ目標と学習評価の改善を行う。	外部活用含め、教育課程検討委員会を年5回以上実施	B	新学習指導要領における学習評価基準を作成。	新転入生の増加の中で、学校間における転入、編入に関する教務規定の改善。教職員のICT機器の有効活用へ向けて、必要課題に応じた定期的な研修を行う。
			実態把握と授業実践へ向け、校内研修、学部研修を実践する。	全体研修、学部研修を年間10回以上実施する。	A	学部研修及び全体研修中心に校内研修会を月1回実施。	
			情報教育部、ICT部会を通し、組織的、効果的な実践を行う。	アナログとICTのハイブリッド有効活用を研究する	B	電子黒板の活用、ロボットやメタバース等外部連携進展。	
2	県内、地域でのセンター的役割を果たし、推進と充実のために、病弱支援の必要な重度重複障害児や発達障害や2次障害を呈する子供への理解と支援を深め、啓発する。	B	組織的な校内外の教育相談を通し、支援の質の向上を図る。	支援部、Co会を核に校内外支援力の向上を図る。	A	Co中心に月1回の校内生徒の実態把握と支援の研修会実施	病弱児童生徒の適切な実態把握と有効な支援へ向けて、より質の高い教職員の佇まいと実践力の向上を外部連携、内部研修とも関連し、高める。
			県の病虚弱教育専門性向上へ向け、本校主催の研修会開催する	実践交流会と県病弱研究会を年3回以上、実施する。	A	外部講師等招聘し、県内の病弱教育研究会を年3回実施。	
			県内小中高等学校、支援学校、各教育委員会に情報発信する。	病虚弱教育に関するリーフレットを作成、広報する。	A	リーフレットによる啓発。関係機関との連携を推進した。	
3	キャリア教育の充実へ向け、関係機関と連携し、生徒の実態把握や教職員の授業改善に努める。	B	外部活用を含めた実態把握力の向上と授業改善に努める。	他支援学校実践や学習指導支援員を年間通じ活用する	B	学習指導支援員や外部講師等活用し、実践力向上を図る。	生活の質の向上とは、キャリア発達とは何かを教職員が常に意識した授業作りや児童生徒対応を行う。外部講師や県の取組等活用し、外部連携、広報、発表の視点で取り組む。
			自立活動を核に、自己理解、自己有用感やキャリア発達を促す	自立活動の取組を整理し、全国、県の発表等に繋げる	A	全病、県病、近畿放送大会等発表実践を行った。	
			学校運営協議会や医療福祉労働機関との連携、構築を深める。	地域連携や商品開発等外部連携と多様な進路対応。	B	高等部3年生の多様な進路対応とものづくり製品品質向上。	
4	本校和歌山病院に長期入院治療・療養を要する児童生徒へのより有効な支援のため、病院、保護者、関係機関との連携を深め、安全、効果的な支援を共有する。	B	実態把握と五感に迫る授業改善をビデオ等活用し、取り組む。	授業担当者会にて、教材研究や授業改善を随時行う。	A	ビデオ研等ICT機器を活用。授業前後のPDCAを行った。	コロナ感染症等の対応の変遷の中で、病棟との連携しながら児童生徒の病院外との接点のより拡充に努める。重度重複児童生徒のICT機器の有効活用実践を促進する。
			感染症等の状況に応じ、病院と連携しながら授業を組み立てる	病棟連絡会を核に教育内容等、協議・調整を行う。	B	病棟と連携し、感染拡大を防ぎながら教育実践を行えた。	
			体験学習を含めICTを効果的に活用し、病棟との連携を図る。	遠隔ICTを活用した授業実践、研究を行う。	B	本校、家庭との遠隔授業や視覚、聴覚等感覚へICT機器の有効活用を実施した。	

## 学校関係者評価（2月17日実施）

- ・和歌山病院入院生はコロナ関連で学校への登校が難しい状況が継続している。感染状況やコロナ対応等鑑み、病院と連携し、はまかせ教室や外気浴等段階を経て登校へ結びつけていきたい。
- ・教職員にとって働きやすく、また生徒にとっても学びやすい安心できる環境があるからこそ、生徒達の成長に繋がっている。生徒が教員に相談しやすい評価がとても高いのはすごいことである。
- ・校内外における病弱教育の専門性を高め、特性に応じた授業づくりをさらに深めてほしい
- ・キャリア発達の関連で、他機関と連携し、生徒や保護者に情報を発信していく、情報を知る機会を益々増やしてほしい。生徒達の体験学習や経験をさらに充実させてほしい。
- ・防災における課題は多くある中、地域との合同訓練等実動も含めて防災教育を今後もさらに進展してほしい。
- ・みはま支援の教育相談は地域からの評価が高い。地域を支えるセンター的存在になっていると実感する。
- ・メタバースやロボット活用など世間でも注目されている活動も実践しているので、今後も一般化させてほしい。
- ・現状維持からさらに新しいチャレンジへ今後も期待している。